

韓国歩行—6 (慶州～釜山)報告

篠崎 次郎

1. 期間 2010年4月3日～4月9日
2. メンバー リーダー 篠崎 次郎 記録 石塚 正太郎
部外者(石塚さん知人) 山本 忠、松本 明子、松本 美和 計5人
3. 日程
 - 4月3日 成田 ～ 釜山 DL637
18.50発 21.25着 釜山市内 松島ビーチホテル泊
 - 4月4日 釜山 バス 慶州市内観光 慶州市内 民宿スオジェ泊
 - 4月5日 慶州駅～蔚山駅歩行
 - 1班 (タクシー) 慶州駅一歩行25キロ→毛火駅 (バス)→蔚山 (バス)→宿
 - 2班 (タクシー) 毛火駅一歩行19キロ→蔚山駅 (バス)→宿
宿は市内の東海岸 プリンズホテル
 - 4月6日 蔚山駅～機長駅歩行
 - 1班 (バス) 蔚山駅一歩行22キロ→宿
 - 2班 (バス) 蔚山駅 (列車) 機長駅一歩行21キロ→宿
宿は市内東南海岸 ハヌルバダペンション
 - 4月7日 機長駅～釜山駅歩行
 - 1班 (タクシー) 機長駅一歩行17キロ→海雲台駅 (地下鉄) 門岷駅
→2班と合流し歩行4キロ→釜山駅
 - 2班 (タクシー) 機長駅 (列車) 海雲台駅一歩行18キロ→門岷駅
→1班と合流し歩行4キロ→釜山駅 市場を観光(タクシー)
→宿 宿は4月3日と同じ
 - 4月8日 釜山市内観光
 - 4月9日 釜山 ～ 成田 DL636
11.35発 13.40着
4. 費用(実績)

航空運賃	39200円
宿泊費	25500
交通費	5600
食事代	13400
その他	4600
計	88300

5. 歩行記録

4月5日

1班 慶州駅 ～ 毛火駅 朝のうち曇りのち晴れ 気温10～15度ぐらい

注 バスの発展で鉄道はさびれ、毛火駅など小さな駅には現在列車は止まらない。

朝食を宿で済ませタクシーで慶州駅へ向かう。

8時50分歩行開始。国道7号線を南に向かって歩く。慶州の市街は大変良く整備された綺麗な町だ。4車線道路の両側には歩道が完備しておりすべて桜の街路樹となっている。桜の花はまだ蕾であと1週間もすれば咲き始める状況だ。この桜が満開になったら見事だろうなあと想像しながら歩く。町の中には公園も多く落ち着いた実に感じの良い町である。気温は11、2度か、歩いていても汗はほとんど出ない。市の中心から外れると田園風景となって来る。平野部は田圃が多く稲作が盛んなようだ。仏国寺の駅まではこんな歩行が続く。11時30分仏国寺駅。この先は歩道も無くなり食堂も無さそうなので昼食を取ることにした。うどんの専門店を見つけて入ったところ混

雑してたが何とかありつけた。腹ごしらえも出来12時30分過ぎ再び歩き出す。ここからは道路上に白線で区分された歩道となる。車に注意しながら山間の農村地帯の歩行が続く。途中小さな町があり14号線と合流する。さらに40分も歩くと14号線と分かれ毛火駅に着いた。15時30分今日の歩行は終わった。駅舎は商店になっており道路の向こうにバスセンターがある。そこから蔚山行きのバスが出ていることが分かり蔚山へと向かった。蔚山駅で2班と合流してバスで宿へ 18時30分着



慶州の桜並木

2班 毛火駅 ～ 蔚山駅

宿からタクシーで毛火駅のバスセンターへ

8時50分歩行開始 国道7号線を南下してゆく。虎溪駅近くになると賑やかな町となってくる。蔚山工業地帯などのベッドタウンである。高層アパートが数多く建っている。道路も6車線、8車線となり、歩道も完備して歩き易い。やがて国道7号線と分かれ線路沿いの道に入る。そして蔚山空港近く

を通り考門駅近くのゴルフ練習場の食堂で昼食を取る。12時15分、1時間の休憩後再び歩き始めた。蔚山市内に近づくと東側は工業地帯で車の数も多くなる。川を渡り蔚山市の中心地に入り15時 駅に着いた。インフォメーションに入りホテルまでのバスを調べ1班と合流、今日の宿プリンスホテルへ向かった。18時30分 宿着



蔚山駅から見た市内

4月6日

1班 蔚山駅 ～ 市東南海岸のペンション 晴れ 気温10～15度

宿よりバスにて蔚山バスセンターへ センターのコンビニで朝食を購入し済ませる。

8時30分歩行開始、線路に沿って国道31号線を南下、市の中心を抜けると工業地帯となる。10時30分国道14号線方面と分かれ31号線を南下する。サムスン、現代自動車、などのある大工業団地となる。道路も8車線、トレーラー、トラック、乗用車、などが激しく行き交い、韓国の経済活動の活発な様子が見られた。歩道も綺麗に整備され、松、桜、が植えられておりまだ若木だが10年もしたら素晴らしくなるだろう。12時峠の食堂で昼食、ここはドライバー、作業員、などで混雑しており満員だ。昼食後宿に向かって歩く。しばらく歩くと工業地帯から離れ31号線を南下する。道路も2車線となり歩道もなく車に注意して歩く。やがて農業地域となり遠くにビルが見えてきた。16時 宿近くに来たが宿が見つからない。数人の人に尋ねたが見つからず、最後の人は電話で確認し、バイクで宿まで案内してくれた。16時30分ようやく宿に着いた。

2班 機長駅 ～ ペンション

宿よりバスにて蔚山バスセンターへ、朝食後蔚山駅まで歩き列車で機長駅へ10時30分駅から歩行開始、国道14号線を北上し40分ほど歩いたところで31号線に入る。31号線は2車線道路で歩道も無く車に注意して歩く。さらに北東方向に進むと海が見えてきた。松林の多いところで海岸には海水浴場、ホテルなども所々に出来ている。12時30分 建設中の公園の東屋で昼食、今日の歩行は31号線を宿まで北上あるのみだ。小さな岬を通過するたびにアップダウンが出てくる。大きな岬の通過では30分以上の登りが

続いた。こんな歩行を続けていると途中で小さな茶園と書いた店があった。韓国のお茶はどんなものかと入ってみたら、布団をかぶって寝ていた娘さんがガバット起き上がってきた。何かとこちらはびっくり、お茶はどこかと聞いても分からない。やり取りしているうちにグリーンティーは無いとのこと。単なる雑貨屋でお茶と言うのは飲み物があるということのようだ。あの看板は何だったのだろうか。気を取り直して歩くが、上り下りが予想以上にあり疲れも増してきたころ宿の近くに来た。確認のため1班に電話した。もう着いただろうと思っていたら宿が見つからず人に聞きながら探しているとのことだ。おおよその位置を聞きそこに向かって歩いているうちに1班から電話があり、我々も宿に到着出来た。16時50分

4月7日

1班 機長駅 ～ 海雲台駅 晴れ 気温12～17度ぐらい

宿からタクシーで機長駅へ、列車が直ぐ来ることが分かりこれに乗る2班を見送り、駅前の食堂で朝食を済ませ歩きだす。8時10分駅から鉄道を横断し国道31号線に出る。途中から31号線と分かれ23号線を南下するのが今日の歩行だ。道路は6車線で両側に歩道がきちんとあり歩き易い。車の数は結構



海雲台へ向かう道

多いが6車線あるので渋滞は無い。歩道は桜の街路樹でまだ樹齢15年もたっていない若木だが今は満開で綺麗だ。桜は慶州では蕾、蔚山では5分咲き、釜山では満開と東京に続いて花見を楽しめた。道は海雲台のニュータウンへと続く。やがてトンネルを抜けるとビックリ。別世界に来たようだ。ニュータウンだけあってマンションの林が続く。25階前後の高層住宅が主で100棟以上はあるだろう。地図で見ると丘を扇形に開発しており、幅が2キロほどある大団地だ。これほど大規模な住宅群が出来ているとは想像を超えていた。しばらく歩くと地下鉄2号線の終着駅2-1番駅に来た。この地下鉄が釜山方面への通勤の足となっている。コーヒーショップで一休みをして海雲台駅に11時30分着。ここから地下鉄で門硯駅へ行き1班と合流、食事後釜山駅近くまで歩き今回のすべての歩行は15時過ぎ無事完了した。

2班 海雲台駅 ～ 釜山駅

宿からタクシーで機長駅へ、そして列車で海雲台駅へ

8時歩行開始、市街地では店がまだ開いていないので朝食のできる店を探しながら歩く。9時 イートンの新しいベーカリーで久しぶりにパンとコーヒーの朝食を取る。朝食後は地下鉄2号線の上の道路をひたすら歩く。街路樹の桜も満開だ。駅の近くには市場もあり活気に溢れていた。こんな市街地を門硯駅まで歩き1班と合流、昼食後釜山まで歩き今回の歩行は無事完了した。14年間に亘って続けてきたユーラシア大陸歩行の最終点に到着したのだ。感無量だ。

雑 感

石塚 正太郎

*ユーラシア大陸の最終区間、慶州南道(慶州～釜山)を中国ルート調査に参加した助山人山本 忠さん、と松本 明子さん、グルメリポーターの松本 美和さん、ユーラアのメンバーの篠崎さんと私で、桜満開の時期に美味しい料理を食べながら楽しく歩いて幸せでした。韓国は日本同様桜の並木が整備されており毎日がお花見でした。

*松本美和さんのアドバイスのお陰で韓国のグルメを満喫することが出来ました。

ベスト3は下記の通りです。

- 1、瑤石宮の宮中料理 昔の大地主の屋敷を利用した建物で食べる数十種類のコース料理は実に美味
- 2、南浦参鶏湯 鶏1羽の内臓に色々な食材を詰め込みとろけるほど煮てありスープが美味
- 3、東菜ハルメパジョン 韓国風お好み焼きですが、私が知っている物とは別物ふんわりとした食感とたっぷり入ったねぎが絶妙に合う

*韓国の古い文化と親切な人達にふれ、韓国についてのイメージがまったく変わりました。

- 仏国寺 : 新羅王朝をしのぶ韓国最大の仏教建築
- 石窟庵 : 白色花崗岩で彫られた美しい如来座像
- 良洞民俗村 : 孫氏と李氏によって形成された村で、村全体が1984年に文化財に指定
- 梵魚寺 : 釜山最古の韓国禅宗の総本山

韓国に対する先入観を変えてくれた旅だった

篠崎 次郎

韓国には過去2回仕事で行ったことはあった。しかしソウル、釜山と言った大都市と

工場であり、韓国の人々や伝統文化に触れる機会は無かった。今回は慶州から蔚山、釜山、と歩行して3つの特徴ある都市を旅することができ色々な出会いがあった。マスコミの報道などによれば韓国の人々は対日感情も悪く、また気性も激しく多少の心配もあったが、旅で出会った人達は皆親切に対応してくれ感謝している。利害関係のない我我だからとの見方もあろうが、町の綺麗さや、伝統文化の素晴らしさ、そしてそれらを守る人達、などと出会い私の先入観を変えてくれた。

*慶州

慶州は新羅の政治、文化中心であったところで2000年には仏国寺、石窟庵の他に南山地区の石仏郡など町全体を含めて世界遺産となった。史跡も多く、また伝統文化、儒教の文化にも触れることが出来る地区である。

慶州は綺麗な町である。公園も多く、松、桜が植えられ良く整備が行き届いている。山や林は松が多く、そんな中に古墳も見える。また道路も良く整備されており両側にきちんと歩道が出来、桜の街路樹が植えられていた。街路樹に枯れた木が1本も見られなかったし、また道路にはごみも無い。どこを歩いても気持ちの良い町だ。その慶州の民宿に1泊した。この民宿の主人、李再浩

さんは全国に散らばっている古民家を移築し(今3棟あり4棟目が完成間近だった)民宿にしていた。主人は美術を専攻し現在大学で東洋美術史 韓国美術史、を講義しており、全国の文化遺産を産歩く会、文化遺産を守る運動、保存会の理事、文化財研究所の理事、その他多くの肩書を持っている。著書として「千年古都を歩く喜び」、「三国有事を歩く楽しみ」がある。



民宿 右の建物に泊った

る。ユーラシアを歩く会の趣意書を読んでもらうとこの本の題名にもあるように、歩いて旅することに共通点があり共感を抱いてくれたようである。そしてこの宿は伝統文化を愛する人々、文化人、の間では結構名が通っているようで、宿泊した人のサイン帳にあるイ；ミョンバク夫人、俳優、などの一筆を見せてもらうことが出た。

実はこの宿に着くまでに色々と親切な人に助けられた。仏国寺を見学し宿へ行くには10番のバスに乗れば宿に行けると教えられ、バスを待つて運転手に確認、運転手は乗客やタクシー運転手に聞いてOK乗れと言う。しかし動き出してしばらくするとどうも分からない様子、携帯でさかんに連絡を取っていた。やがてバスを徐行させそして止めて、乗客に何か説明をし謝っているようだ。そして我々に降りるとのこと、我々を連れて反対車線に止まっているタクシーに乗れという。そこでやっと事情が分かった。宿が分からないのでわざわざ携帯でタクシーを呼んでくれたのであった。お陰で暗くなる寸

前に宿に着けた。宿は国道から500mぐらい入った家も散在している畑の中で、バス停で降りても見つけられそうにもなく、結果として親切な運転手に助けられた。しかしどう見ても周りは畑だけで夕食をすところもない。一人日本語が多少話せるので夕食に行きたいのだが、と聞いたら、近くに有名な宮廷料理を食べられる所がある。是非行って見なさいと教えてくれた。だがタクシーを呼ばなくてはと思っていたら車で送ってくれた。そこは立派な料亭で、宮廷料理を満喫し終わったところにわざわざ主人が迎えに来てくれた。本当に親切なもてなしをしてくれた。

翌朝近くを散歩したら宿から200mぐらいのところに、直径10mを超える半球状の古墳があった。この場所は何か歴史的な謂れがあるのか、民宿をここに建てた理由があったのか、日本語の分からない主人に聞くことが出来ず残念だった。

20種類以上ある持て成しの朝食後、出発のときには主人が竝笛を吹き送り出してくれた。無事を祈ってくれたのか、別れを惜しんでくれたのか、古い仕来りなのだろう。感動のひとつだった。



竝笛を吹く宿の主人

*良洞民俗村

慶州の北東、バスで約40分、さらに歩いて15分、盆地の中に民俗村がる。日本で言えば白川郷のような村である。古民家、藁ぶき屋根の小屋が山間に沢山建っている。昔から孫氏、李氏の両氏族が厳格な儒教の気風を重んじながら代々暮らし続けている村で、村全体が文化遺産となっている。今世界遺産への申請を準備しているようだ。入口の案内所の近くに行くと中から女性が出てきて、ボランティアでガイドをしてくれると言う。その女性は日本に留学していたと言い、きれいな日本語を話す。日本で親切にされその恩返しと、日本語の勉強とを兼ねて日本人へのガイドを買って出ているとのことだった。大変ラッキーなことに2時間以上も案内をしてもらえた。



現在140戸、400人の村民おり、200年以上の古民家が54棟、うち40

棟が文化財の指定を受けている。この場所は風水の良いところで、人心も良く学者、大臣が多く出ているとのことだ。1戸に3～4棟の建物があり、法事のための建物も出来ている。韓国では3代前までの人達の法事を必ずやるので長男の嫁は大変だと言う。だから長男の嫁になることは嫌われていると言っていた。このご時世でどこの国も同じようだ。このような民俗村は韓国には6か所あるが、ここが規模、保存状態、文化財の数、自然環境などで優れているとの話だった。ここでは昔ながらの伝統的な食事が出来るとガイドブックにあったので紹介してもらい農家の座敷で昼食を取ることが出来た。



文化財の無添堂 この部屋で法事を行う

*蔚山の工業地帯

蔚山駅の西側は結構史跡がある。今回の旅ではこの方面には行かなかった。東側は海岸まで工業地帯である。一部埋立地もある。この地区はサムスン、現代自動車、重工業、造船など韓国を代表する企業が多くある大きな工業団地がある。主要道路は8車線、そこをトレーラー、トラック、乗用車など忙しく行き来している。かなり活発な様子で、韓国は日本より景気の回復は早いと言われているがそんな感じを受けた。駅の南北20～30キロあたりまでは通勤者のベッドタウンになっているようで、高層の集合住宅が多くみられる。通勤者の多くはバス、マイカーで、鉄道の利用者は少なく、運行本数はわずかで衰退していくばかりのようだ。小さな駅は閉鎖され列車は止まらない。

蔚山市の東南海岸のペンションへの歩行の日、このペンションが見つからず苦労した。この宿は海水浴客の自炊宿泊者用らしく、知っている人も少ない。近くに来ていながら探すのに40分ほどかかっている。探し当ててくれたオバサンの話は前記したが時間をおしまず親切に対応してくれ感謝。

その日の夕食でも親切な人に助けられた。夕食に焼き肉を食べようと店を探した。海辺なので海鮮料理が多くなかなか見つからない。あきらめ半分で入った店で店主のオバサンが焼き肉はやっていないと言いながら携帯で連絡をしてくれた。そして近くでやっているからと地図を書きかけたが、目の前の車に乗りなと車で送ってくれた。なんと商売敵であろうに車で送ってくれた親切な人でした。おかげで美味しい焼き肉にありつけた。

*釜山の住宅

釜山は大きな港町だ。昔ながらの市場、若者で賑わう近代的な町、温泉町、リゾ

ート地など多彩だ。そして住宅地の開発がすごい。海雲台のニュータウンは大きな規模だ。こうした開発はかなり総合的な計画のもとに短期間に進めているようだ。幅2キロもあるニュータウン開発、そこに繋がる道路、そして人々の足となる地下鉄など総合的に開発がなされていた。行政の力が強いのか、未開発地が多く進めやすかったのか、良く分からないが。我々の短期間の旅では車の渋滞には合わなかった。



海雲台のニュータウン

* 仏国寺、石窟庵、梵魚寺

韓国を代表する名刹、仏国寺、境内を含め大きな寺で観光客も多い。山門を通り石組の階段をあがると仏の国に行け、釈迦如来の彼岸の世界である大雄殿がある。



仏国へ上がる石段

仏国寺の隣の山奥に石窟庵がある。仏国寺の山門から歩いて1時間強の登りだ。この石仏が素晴らしい。花崗岩を彫ってドームを作り、後の壁に十一面観音、中央に本尊仏を彫ってある。この本尊仏が素晴らしく美しい。しばし見とれてしまった。

梵魚寺には4月8日に行った。静かな山寺なはずが、釈迦の誕生日とあって信者が沢山来ていた。信者はそれぞれの建物に入り僧侶と一緒に読経をあげていた。これだけ信者が多いのかと感心させられ、日本人の無宗教さを思い知らされた。



テントで信者が読経



松島ビーチホテル(釜山の宿)裏山は桜

以上記したように様々な出会いがあり、言葉は通じないことが多かったが行動の中でお互い感じるものも多かった。そして伝統文化の一端を見ることも出来、それを一生懸命守ろうとする人にも会え、等々でわたしの韓国に対する先入観を変えてくれた旅でした。